

新ICT利活用サービス創出支援事業(電子出版環境整備事業) 事業評価会

評価者のコメント

プロジェクト EPUB日本語拡張仕様策定
代表機関 イースト株式会社
共同提案組織 一般社団法人日本電子出版協会(JEPA)、アンテナハウス株式会社

(1)これまでの実績に対する評価 (青:高い評価、赤:低い評価、緑:留意すべき事項)

- 国際的標準化活動の中で日本語のために必要な特殊環境を認めさせることの大変さは十分理解できるので、今回の成果については高く評価する。
- 実際にEPUB日本語対応拡張を実現したことを高く評価する。
- HTMLやCSSなど、既存の標準との整合をきちんと取り、将来の仕様に対応するための専門家チームを組織化し、システムティックにEPUBの拡張へ対応できる体制を確立した点は評価できる。
- 実証の成果について評価しにくい。
- 世界標準になりつつあるEPUBに縦書きルビ付きのフォーマットを導入することは日本の書籍を世界に普及させるために必要なことであり、その実現に向けて一歩が踏み出せたと考えられる。
- 世界的なデファクトであるEPUBに日本語拡張仕様が盛り込まれたという活動成果は成功と評価できる。そのためにW3CやIDPFの活動に貢献・リードしてきた点、またすでにWebkitなどに採用された点などを高く評価する。評価A
- 国際的発展の観点からも、本整備活動は高く評価される。

(2)今後の取組に対する評価、留意点 (青:高い評価、赤:低い評価、緑:留意すべき事項)

- EPUBにおけるメタデータ、DRM、電子署名、文書IDなど、いくつかについては今回の支援事業の中で具体化に向けた動きがある。それらをうまく取り込むことを期待する。
- 活動を継続して普及を促進してほしい。
- これまでの活動を継続し、国際標準化を促進して欲しい。また、他のブラウザ(IEなど)への対応もぜひ進めるべきである。

- EPUBの日本語拡張仕様によってブラウザによる利用が可能になる。公共的開発が求められる事案である。
- より具体的に展開して最終的にパーフェクトなフォーマットが完成することを期待したい。
- 標準は普及して初めて価値が出る。世界中の電子書籍端末所有者に日本の優れたコンテンツを配信するには、端末に仕様が搭載されるだけでは不十分で、日本からのコンテンツ発信が必要だが、**それへの言及がほとんどなかったことに不安が残る。評価B**
- 絶えず進化するEPUBの中に日本語利用の拡張が継続的に行われる体制の維持確立が期待される。縦書きのみならず、横書きへのしっかりした対応も期待される。